

Moodle を使った英語授業 : 協調学習のツールとしての可能性 English Language Class Using Moodle : As A Potential Tool of Collaborative Learning

小 山 由紀江

This paper describes the implementation of collaborative language learning using Moodle as a Course Management System in four compulsory university classes. After examining the theoretical background of collaborative learning, the functionality and flexibility of Moodle in classroom teaching are introduced. This is followed by students' feedback on the use of Moodle in order to demonstrate its effectiveness in facilitating classroom communication.

1. 始めに

Moodle は Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment の略であるが、WebCT、Blackboard、WebClass などと同様、Course Management System (CMS) の一つである。しかし、社会的構造主義の考え方に基づいて開発され、フリーソフトウェアの理念に従った修正・再配布自由なシステム構築を目的とする GNU 規格に基づくソフトウェアとして、他の商業ベースで開発された CMS とは異なる特徴を持っている。即ち、Moodle はコストがほとんどかからないこと、また、コース管理にはプログラミング等の知識は要らず教員が比較的容易にできること、オープンソースであるため順次改良が施され、さらにそれぞれの学習環境に適した作りこみが可能であることである。以上の点から、Moodle はここ数年世界中の教育機関に急速に広がりを見せ、日本においても大学／高等専門学校等、多くの教育

機関で広範に利用され始めている。また、これまで日本の ICT 教育を牽引してきた独立行政法人メディア教育開発センター（NIME）も2007年に Moodle を利用して学習教材を配信する UPO-NET（オンライン学習大学ネットワーク）を開設し、各大学の Moodle 上にあるコンテンツ（数学、英語、キャリア教育等）を集約して公開し、あらゆる教育機関に対して無償で提供している。

上記のように Moodle は日本においても ICT 教育に最適な CMS の一つとしてその地位を定着させつつあるが、時を一にして名古屋工業大学では2007年4月から情報基盤システムを一新し教育用の計算機600台をシンクライアント化した。（伊藤他，2008）そしてこのシステム更新の際、CMSとして Moodle を新たに導入し、教務システムと連携させることによって大学院を含む全コース（2008年度現在1735コース）を Moodle に載せた。また IC カードとシングルサインオンによる認証が導入され、この認証を用いることにより教員も学生も学内のみならず学外からも、簡単に Moodle を使うことができる環境が整備された。認証のプロセスを経ると、学生も教員もまずそれぞれのポータルサイトに接続されるが、そのポータルサイトから各自の Moodle コースに直接入れるようになっており、Moodle を用いる教育環境としては最適の環境が整ったと言っても過言ではない。

しかし、その一方で教員間には Moodle を使うことの教育的意義や、実際の活用方法に関する知識が広く行き渡っているとは言えず、2008年度前期の Moodle 使用者は名古屋工業大学全教員の約4分の1に過ぎない。また使用している機能も限定的であり、現段階では、個々の教員がそれぞれにまだ試行錯誤の中で使っている状況と言って良いだろう。

本研究では Moodle の思想的背景としての社会的構成主義および協調学習について論じ、さらに Moodle を英語教育の様々な場面に用いる方法を紹介する。さらに、教員と学生とのコミュニケーションに活用して授業の活性化を図る協調学習のツールとして、また学習教材や異なる言語活動に導くゲートウェイとして Moodle を利用する際の、効果と問題点を論ずることにする。

2. Moodle とは何か

前述したように Moodle は Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environment の略であるが、Dynamic という言葉が示すように Moodle は

固定的なシステムではなく、世界中の Moodle に関わる人々が Moodle サイト (<http://moodle.org>) を通してリアルタイムに Moodle の改良を続ける可変的なシステムである。2002年に Moodle が Martin Dougiamas によって開発されて以来、前述のように Moodle の利用は飛躍的に広がりを見せ、2008年12月現在、全世界で203の国に48000を越す Moodle site があり、250万以上のコースに2800万人近い人がユーザーとして登録をしている。また積極的に Moodle の改良に関わる Moodle community の登録者が約61万人存在している。この圧倒的な利用者数を見ても、現在世界において Moodle が CMS として如何に重要な位置を占めているかが理解されるであろう。

2. 1 Moodle の成り立ちと社会的構成主義

この Moodle は前述の通り、オーストラリアのパースにあるカーティン工科大学の学生だった Martin Dougiamas が開発した CMS であるが、Dougiamas は社会的構成主義を一つの研究テーマとしており、Moodle は言わばこの考え方を教育的側面から実現するプラットフォームとして開発したものである。(Dougiamas, 2003) この社会的構成主義教授法について Moodle のサイトでは以下のように説明されている。

Moodle is a software package for producing internet-based courses and web sites. It is a world-wide, ongoing development project designed to support a social constructionist framework of education. (下線部筆者)

社会的構成主義は構成主義、構造主義など様々な呼称があるが、科学的実証主義と対比的に語られる考え方で、久保田 (2003) によれば、「構成主義では、〈現実〉は人が世界と交わることで構成されると考える。—中略—つまり「知る」とは、人がその〈ところ〉のなかで世界を作り出す過程に他ならず」「学習は意図的で主体的な行為」と説明される。そして、この学習理論が前提とするのは1) 学習が知識を構成していく過程であること、2) 知識は状況の中で形成され、活用されることによって意味を持つこと、そして、3) 学習は共同体において相互作用を通して行われる、というこの三点である。この社会的構成主義に基づいた教育法は1980年代後半から注目を集め始めていたが、この10年は情報通信技術が急速に発達したことより上記の三点を実現する道具として、ICT 教育への活用も社会的構成主義の中心的課題となっている。(久保田, 2003)

前述のように Moodle は社会的構成主義の教育観に基づいて開発された CMS であるが、Moodle study サイトは Moodle の特徴を以下の2点にあるとしている。即ち

1) 知識の提供より学習者に経験をすることを旨とする

2) グループワーク、協調学習、社会的相互作用の重要性

である。この基本的な教育観は Computer Supported Collaborative Learning (CSCL) の考え方に継承されている。Lipponen (2002) によれば、CSCL が照準を置いているのは

- how collaborative learning supported by technology can enhance peer interaction and work in groups.
- how collaboration and technology facilitate sharing and distributing of knowledge and expertise among community members.

の二点である。すなわち CSCL が目指す所は、学習者が蓄積した知識ではなく、他者との関わりの中で経験したことを通して得る、使うことのできる知を獲得することと言えるだろう。

2. 2 Moodle と協調学習

他方、協調学習 (collaborative learning, cooperative learning) は Slaven (1995) によれば、そのルーツを古くはコメニウスそしてルソー、ペスタロッチ、デューイ等の教育論にまで遡るが、通常は1960年代から70年代に提唱されたピアジェやヴィゴツキーの発達理論に基づくものであり、学習者同士のインタラクションや共同で問題解決を行うことが人間の発達にとって重要な要素とされている。酒井 (1997) は協調学習を「学習者がグループ活動の中で互いの学習を助け合い、一人一人の学習に対する責任を果たすことで、グループとしての目標を達成していく、協調的な相互依存学習」と定義している。そして、これは単にグループ学習という学習形態を指すのではなく、教育の基本的アプローチを学習者間の協力に置くものであり、学力のみならず英語学習に対する意欲・関心といった学習への姿勢にも良い結果をもたらしたと結論している。

秋山 (2004) の言うように、協調学習は社会的構成主義を教育面で実践する際の1つの形であり、その意味で、社会的構成主義に基づいて開発された Moodle は「協調学習のプラットフォーム」と言い換えることができよう。

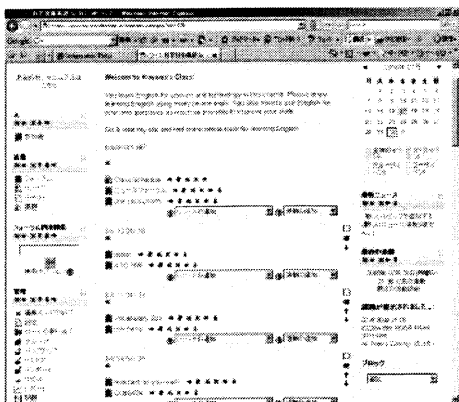
3. 授業での Moodle の使い方

3. 1 対象クラス及び授業環境

まず、本研究の対象となっているのは科学技術英語のコースであり、これは1 / 2年生の必修科目である。クラスのサイズは35-40人、筆者は1年生2クラス、2年生2クラスの計4クラスで、Moodleの使用という点ではほぼ同じ展開の授業を行っている。学生は毎時間、コンピュータを用いた学習と、教科書による対面学習との両方を行う blended learning である。教室はCALL教室を使用しており、音声装置及びネットワークに繋がったコンピュータが整備され、学生の机には教員がコントロールするセンターモニタが設置されている。

3. 2 Moodle のコース

この授業では、授業に関連する様々な情報（シラバス、宿題、テストの予告、その他のお知らせ）、毎時間のタスク（課題、課題提出、小テスト）、学習コンテンツ（アルクやATRを含む e-learning 教材、教員が作成した海外紹介教材）、学習関連サイトへのリンク等が、Moodle上に置かれている。学習者は毎時間、授業が始まると同時に Moodle を開き、当日の学習活動を確認し自主的にフォーラムに指示された学習課題に取り組み始める。筆者の授業においては、Moodle は上記のように色々な情報にアクセスし、学習活動を展開するための授業用の「プラットフォーム」である。（下図参照）



ところで、Moodleは協調学習という視点に基づいて開発されていることから、用意されている機能の多くは学習者と教員、あるいは学習者同士がインタラクティブに使うことができるものであり、対象クラスでも「フォーラム」「課題提出」「小テスト」「ワークショップ」「アンケート」と多くの機能を使用している。しかし、本稿では筆者の授業において最も重要でかつ毎回使用する機能として主に「フォーラム」の機能、使用方法、意義、そしてMoodleの持つ課題に関して述べることにする。

3. 3 フォーラム

3. 3. 1 フォーラムによる授業展開

Moodleは、「フォーラム」という機能が充実しており、あるトピックに関してディスカッションを行う等、学生同士あるいは教員と学生の双方向的なコミュニケーションが容易にできる。筆者はこの機能を利用した英語学習活動を毎授業時間、約20分間設定している。本稿ではこの学習活動を「フォーラム学習」と呼ぶことにする。

典型的な授業の進行は以下のとおりである。

- 1) Moodleの「フォーラム」機能を用いた課題学習(10分)
- 2) フォーラム投稿に対するフィードバック(5分)
- 3) フォーラムテーマに関するディスカッション(5分)
- 4) 教科書を使った授業(60分)
- 5) 小テストの実施と全体へのフィードバック(10分)

| |
|-------------|
| フォーラム 学習 |
|-------------|

3. 3. 2 フォーラムのテーマ

このフォーラム学習は各学期一つか二つの大きなテーマに沿って進行する。例えば2008年度の前期のテーマはEnglish LearningとFood Crisis後期のテーマはGlobal WarmingとPresidential Electionであった。テーマの内容は、地球全体に関わる大きな問題、あるいはリアルタイムに進行中のupdateな問題、学生の英語学習に関連する問題、以上の点に留意して選んでいる。

3. 3. 3 フォーラム学習の手順

フォーラム学習を実施する手順であるが、まず、授業開始前の準備として、テーマに関連するサイトや他のリーディングソースをコースのフォーラム上に張り付けておく。学生は授業が始まると各自Moodleにログインし、

自主的に毎時間フォーラムを開けて課題を読み、さらに課題にビデオがある場合にはそれを視聴する。その後、さらに各自で関連した英語サイトをリサーチし、その記事から別の情報を獲得した後、課題に対する自分の意見をフォーラムに書き込む。さらに全員の書き込みが終わった時点で、書き込みの内容に関して教員と学生とのQ & Aを行い、書き込みから抜粋した2 - 3のトピックについてグループディスカッションを行う。

3. 3. 4 フォーラムの課題と書き込み

ここでは、2008年度前期に Food Crisis のテーマで、ある授業で実際に行ったフォーラム学習の例を挙げておく。(学生の英文表記の誤りは修正せずそのまま転記している。)

フォーラム学習の例 (テーマ: Food Crisis 学年: 2年生)

<課題>

Watch the video and please answer these questions.

<http://edition.cnn.com/video/#/video/world/2008/04/20/verjee.food.101.cnn>

1. What crop has risen in price the most? What is the percentage of the rise in one year?
2. What are the twin problems of food at present?
3. How many children live on the food given by U.N. this year? How much is the total amount less than last year?
4. Again, what do you think of the problem?

<学生の書き込み例1>

1. Wheat 130%
2. energy problem and food problem
3. 20 million children 40% less
4. Food problem is related energy problem deeply. So, it is hard to solve food problem. And it has a long time to solve it. But we must find the way to solve the problem in daily life.

< 学生の書き込み例 2 >

- Q 1 It is wheat which has risen its price the most. It has risen its price 130% .
- Q 2 They are energy problems and food problems.
- Q 3 20million children live on foods given by U.N. And this year, U.N cut 40% of the total foods they gave last year, because food price is much higher.
- Q 4 It is very important to solve not only energy problems but food problems.

以上の2例でも解るように、学生の答え方は多様である。またこのフォーラム学習には学生が自分自身が考えた結果を書くことができるよう、必ずオープンクエスチョンを含むことにしている。学生は、テーマに関する他の学生の考え方を知ると同時に自分の考えをまとめるという作業を毎時間行うわけである。

4. プレゼンテーション

上記のフォーラム学習を基礎に、各学期の後半でフォーラムのテーマによるグループプレゼンテーションのセッションを持つ。この準備には15回の授業のうち3回、毎回20分を当てている。この3回でプレゼンテーションの材料収集、各自のトピック（小テーマ）の決め方、アウトラインの書き方、パワーポイントの使い方などを学習する。これらのリソースはすべて Moodle 上に置き、学生は必要ときにいつでも資料を参照することができるようになっている。

この準備の過程で、アウトラインやパワーポイントの試作を Moodle 上で共有し、ワークショップの機能を使っての peer review や、グループでのブレインストーミングを行う。ワークショップは、学生が他の学生の提出物に対してフィードバックを与えることが出来る機能であり、一人の学生が数人の学生の提出物を参照することができる。これによって、本番のプレゼンテーション前に他の学生がどのような内容のプレゼンテーションを行おうとしているのかを知ることができ、また他の学生と意見を交換することによって、自分の最終的なプレゼンテーションの内容を変更したり改善したりする

ことができる。

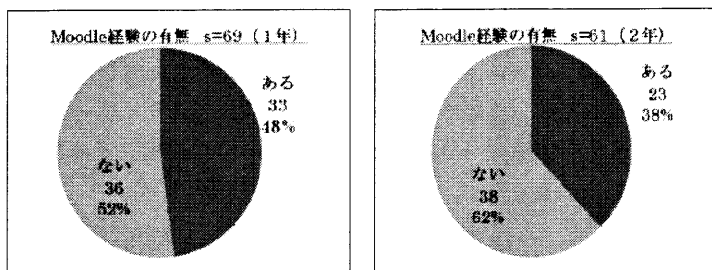
最終的なプレゼンテーションは、5 - 6人のグループで行い、6 - 7のグループのプレゼンテーションが一つの教室の中で同時に進行する。各グループで、発表する学生のモニターの前に他の学生が集まり、教員は順次グループを巡回する。プレゼンテーションは5 - 6分、パワーポイントは最低6ページ、各発表者がプレゼンテーションを終えた後はQ & Aを必ず行った上で、evaluation sheetによるpeer reviewを行う。さらに、各グループでBest Presenterを選出し、クラス全体でこれを発表する。この最終的プレゼンテーションには一回の授業全体90分を充当している。

以上述べたように、このプレゼンテーションセッションは多くの活動をグループで行う。このプロセスにおいて、まさに、人間同士のインタラクションの中に学びが成立していくとする協調学習の意義が表出している。現実にはかなり優れた内容で発表の英語も流ちょうな学生もいれば、たどたどしく原稿を見ながら発表をする学生もいる。しかしこのグループプレゼンテーションは、学期前半から継続してきたフォーラム学習によって培われた人間関係の中だからこそ成り立つ学習活動であり、この「グループの中で学び合う力」がプレゼンテーションとして結実したものと言えるだろう。

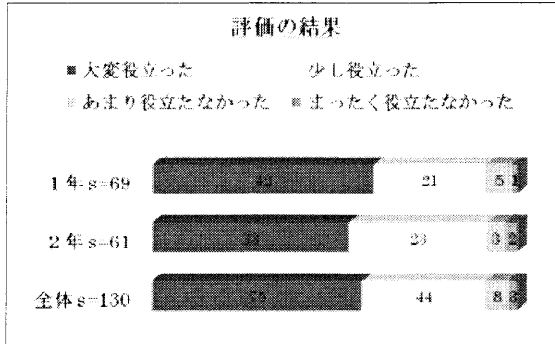
5. アンケート

以上で述べたようなフォーラム学習を軸に展開した Moodle 使用の授業に関して、また Moodle の使用一般に関して、学生にアンケートを実施した。この結果は以下の図に示すとおりである。(アンケートの実施時期は2008年の前期終了前である。)

Q 1. 他の授業で Moodle を使っている授業がありますか？



Q 2. Moodle 上の情報や資料は英語学習上役に立ちましたか？



Q 1 の結果を見ると、他に Moodle を使っている授業があると答えた学生は、1・2年全体を見ると約43%であり、半数には満たないが相当数の授業で Moodle が使われていることが分かる。また Q 2 の結果では、Moodle 上に授業関連の情報や資料を載せたことについて、57%の学生が「大変役に立つ」と高い評価をしている。「少し役立つ」を入れると92%の学生が Moodle の使用に関して肯定的な意識を持っていることが解る。

次に、フォーラム学習全般と協調学習に関して、自由記述形式の回答をもらった。この回答部分はすべて<参考資料>として巻末に付けてあるので、それを参照いただきたいが、ここでは大まかな回答傾向について述べることにする。直接の質問は、

Q 3. フォーラム学習についてどう思いますか？自由に記述してください。

Q 4. Moodle では他の人との意見交換等の協調学習の機能を使いました。これについてどう思いますか？自由に記述して下さい。

の二問である。

Q 3. フォーラム学習について

これに関しては、1年2年ともに全体として大変肯定的な意見が多かった。自由記述の中では「課題が難しい」という意見はあったものの、否定的な意見は「同じテーマを繰り返しすぎ」という一つだけで、その他はすべて肯定的な記述であった。特に「世界のことを考えさせてくれる」「時事的な問題について深く考える機会を与えられることはとても良い」「英語の勉強

としてだけでなく時事問題についても考えるきっかけとなった」「問題について真剣に考えることができるし、他の人の意見を聴くこともできる」という意見に見られるように、フォーラム学習は、学生にとって現実社会の問題に触れ自分でその問題について考える良い機会となったことは明らかである。

Q 4. 協調学習の機能について

フォーラムに自分の意見を書くと同時に、他の学生の意見を読むことができ、またそれにコメントをもらったり Q & A を行ったりする協調学習の側面については、やはり全般に肯定的な意見がかなり多かった。「色々な意見を聞いて大変良い」「他の人の考え方を知ることが出来て良かった」「英語を積極的に使っていくための良い手段」等が代表的な意見であるが、中には極めて少数であるが「教員だけに見られるか他の学生にも公開するか選択的にして欲しい」「恥ずかしい」等の消極的な意見もあった。しかし他者との関わりの中で英語の力が伸張したことを経験を通して実感しているコメントが圧倒的に多数であった。

6. 終りに

本稿では Moodle の機能としてフォーラムを中心に取り上げ、その意義について論じてきたが、Moodle はその他にも多様な活動を一つのコースページに集約できるという点で、多くのメリットを持つ。例えば、フォーラムの他に、課題提出、小テスト、ワークショップ、投票などの機能があり、これらは多少準備をすれば手軽に授業に使うことができる。また音声ファイル、動画なども簡単にアップすることができ、その意味では直接コース上に教材を載せるプラットフォームとしても多様な可能性を秘めている。

また、Moodle は、筆者らが今までに作成してきたオリジナル e-learning 英語教材 (Koyama et al., 2003, Nakano et al., 2008) へのゲートウェイとしての働きも持っている。1) コンコーダンサやコロケーションを利用した英作文支援教材、2) 単語繰り返し練習、3) 文型繰り返し練習、4) 品詞情報付き科学技術リーディング教材、これらは全て Moodle の英語コース上にリンクが張っており、学生は授業のページからこれらの e-learning 教材にスムーズに入ることができる。なお Moodle は自宅からは ID とパスワードに

よる認証でアクセスすることができるため、授業外の学習を確保することが容易であり、この意味でも e-learning 教材へのリンクの意義は大きい。

しかし Moodle を授業で活用するためには、解決しなければならないいくつかの問題がある。まず、サーバの容量が十分である等のテクニカルな環境整備は前提条件であるが、毎時間の授業に使うためには教材や課題の作成には相当の時間がかかり、TA など人的技術的な支援がなければ難しい場合がある。また、小テストやフォーラムへのフィードバック、課題へのコメントや評定など、双方向的な活動を行う場合、教員が一人で学生一人ずつに対応するのは膨大な時間がかかり、メンターの制度も必要である。また、学生同士がフィードバックを与え合う peer review を実施する場合も、フィードバックの与え方に対する指導も必要となる。さらに資料をアップする場合は当然ながら著作権の問題もクリアされていなければならない。これらの問題の解決は、今までのところ、筆者を始めとして Moodle に関わる個々の教員の努力に負うところが大きかったわけであるが、Moodle がここまで広範に使われしかも学習上のメリットも認められている昨今、Moodle サイトにおいて先行的 Moodle 達による問題解決への情報共有が可能となることを期待している。

本稿のフォーラム学習の例にもあるように、Moodle には協調学習のツールとしての大きな可能性がある。フォーラム学習を通し、学生は知識を得ると同時に他者と交流し経験を共有する。そしてその中で「考える力」が養成され、その結果「知識」は自分のものになり「生きた知識」に転換する。Moodle はこのように、学習者と教員あるいは学習者同士のコミュニケーションに基づいた授業を土台から支え、「生きた知」の養成に新たな可能性を開く優れた CMS である。今後、日本においても協調学習のツールとして、Moodle が積極的に授業に使用され、知識を受動的に受け入れる学習から能動的に他者との関わりの中で自分自身の知を構築する学習へと、学習のプロセスに変革がもたらされることを期待している。

参考文献

秋山實. (2004). WebCT 上で行う協調学習の可能性と WebCT の機能改善およびその

- 改善例としての Moodle, 第 2 回 WebCT 研究会研究発表資料
- 伊藤宏隆・舟橋健司・中野智文・内匠逸・松尾啓志・大貫徹. (2008). 名古屋工業大学における Moodle の構築と運用, *メディア教育研究*, 4 (2), 15-21.
- 久保田賢一. (2003). 構成主義が投げかける新しい教育, *コンピュータ&エデュケーション*, vol.15, 12-18.
- 酒井良介. (1997). 日本の英語教育における協調学習. *ASTE News Letter*, 37.
- Cole, J., & Foster, H., (2007). *Using Moodle - Teaching with the Popular Open Source Course Management System*, Retrieved December 20th, from <http://docs.moodle.org/en/>
- Dougiamas, M., & Taylor, P., (2003). Moodle: Using Learning Communities to Create an Open Source Course Management System, *Proceedings of World Conference on Educational Multimedia, Hypermedia and Telecommunications 2003*, 171-178.
- Koyama, Y., Nakano T., and Matsuura C. (2003). Development of an ESP E-Learning Tool Using In-House Corpora, *Proceedings of KES2003*, 533-539.
- Nakano, T., Koyama Y., Cullen B., (2008). Effect of POS-tags on Student Reading Comprehension for General Science and Academic Paper Text, *名古屋工業大学 共通教育 New Directions*, 26, 1-11
- Lipponen, L., (2002). Exploring foundations for computer-supported collaborative learning, in G. Stahl (Ed.), *Computer support for collaborative learning: Foundations for a CSCL community* (pp.72-81). Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum. Moodle site, Retrieved December 26th from <http://moodle.org/>
- Slavin, E. R., (1995). *Cooperative learning: theory, research, and practice*. Needham Heights, MA: Allyn and Bacon.

参考資料

(注：下線部は筆者による)

Q 3. フォーラム学習についてどう思いますか？自由に記述してください。

< 1 年の回答 >

- 英語の話題だけでなく、世界的な事について考えさせてくれるのはいいと思う。食糧問題などは参考にもさせてもらった。
- 時事的な問題を取り上げた学習は役に立つ
- まだ自分には知らない世界がたくさんあることがわかった。
- いろいろな問題を知ることができてよかったと思う。
- なかなか考えさせられることが多くて、よかったと思います。テーマ

を具体的に設定してくれたのでよかった

- 難しい文章はなかなか個人的には読まないので、授業でできて良かったです。食料問題はあまりよく知らなかったので、勉強になりました。
- 時事問題には興味をひかれるのでおもしろいと思います
- 時事的な問題をピックアップすることで、その問題について深く考える機会を与えられることはとてもいいと思うが、必然的に深刻な話題が多くなってしまふことが・・・
- やっぱり英語で書くことの難しさを実感した。(特に単語) 食料問題はとても勉強になりました。これからも今、日本や世界が抱えている問題を取り上げたい。
- 旬な問題を取り上げていたので、英語の勉強としてだけでなくその問題についても考えるきっかけとなったのでよかったと思う。

<2年の回答>

- 英語の文章に触れる機会が必ずあり、いい習慣付けになった。
- 現代の問題がわかって良かった。
- 時事問題の割合を(英語学習に関するものに対して)増やしてほしい。
- 時事的な問題を取り上げるのはとてもいいと思う。問題について真剣に考えることができるし、他の人の意見を聴くこともできる
- 時事的な問題は文章を読むのはかなり大変だったけれど、それを読んで知ったこともあるので良いテーマだったと思います。
- 身近な問題を英語で表現する機会ができていいと思う。
- 普段、あまり知る機会がない問題に触れることが出来、それを英語で書くというのは難しかったが、興味深かった。
- * 時事的な問題については、同じテーマを何回もやりすぎだった様な気がします。
- このままでいいと思います。
- 題材が普段あまり考えないようなことだったので、毎週の授業が時事問題について考えるきっかけとなった。でも、普段あまり考えていない事柄について英語で書くというのがちょっと難しかった。

- いろいろな知識が増えるうえに、それについて考えることができるので、時事的な問題を取り上げるのはいいと思った
- 今まで知らなかった知識を英語を通して学び、そしてその意見を自分でまとめ英語で記述するという、とても有意義なものだと思います。
- 自分にとっては難しいと思いました。

Q 4. Moodle では他の人との意見交換等の協調学習の機能を使いました。これについてどう思いますか？自由に記述して下さい。

<1年の回答>

- いろいろな意見が聞けて大変いいと思う。
- 毎回のいろんな話題を、自分の英語で伝えようとすることが、英語力向上になると思った。
- いろいろな人の意見が聞けてよかったと思います。
- 他の人の意見が参考になりとてもいいと思う。自分の意見も見てもらえて良い。
- 皆の意見が読めるのはいいことだと思います。
- 英語で意見を書くことやクラスメートの英文を読むことで英語の力が付き、良かったと思います。
- 他の人の考え方も知ることができていいと思う。
- ほかの人がどういう考え方をもっているのかを知ることができて、興味深かった。
- 参考にしたり出来るのでいいと思う
- * 意見を書くことには抵抗はないですが、読み上げられたり発表したり、クラスメートに見られるというのが嫌です。教員だけ閲覧できるか、公開するかどうかは選択できるようにして欲しいと思いました。
- 意見の共有ができていいと思います。
- いろんな人に見られるという意識があると英作文なども正確にやらなくてはという意識につながるのでいいと思います。
- 自分以外の意見が聞けて、勉強になる。
- 英語を積極的に使っていくための、いい練習になると思います。
- あまり英語で文章を書くのは苦手なので、練習になります。でも、ちょっと恥ずかしいです。

- 自分の語彙力の貧弱さがわかって励みになります

< 2年の回答 >

- 自分で英文を書くという行為は、最近ほとんどしていなかったので、すごくよかったですと思います。クラスメートの書いた英文を読むこともいいと思います。
- 自分の英作文の力がなくて少し恥ずかしかったけど、面白かったと思います。
- 他の人の意見を読むと自分とは違う考え方を学べたりして、面白かった。自分の意見を人に見られるのは少し恥ずかしい気もする。
- 周りの人の意見を読むことで自分自身の向上にもつながると思います。いいことだと思います。
- 英語で情報を発信することは普段なかなかないので良いものだと思います。
- うまく文章を書くことができないので少し大変でした。
- 自分の文法のなっていない文を見られるのは恥ずかしかったが、みんなのを見て参考にできるのでよかった。
- いろいろな人の考えを知ることができてよかった。
- 英語の授業だと一人だけ答える、というのが多いけれど、これは皆答えなくてはならないというので良いと思います。
- とてもいいことだと思う。自分の考えを英語にすることが上達の秘訣だと思う。
- 楽しくて良い。
- 文法、語法の添削をして、その場で（意見を読み上げたときに）言ってほしい。
- とてもいいと思う
- 自分の意見を書くのが遅いので、毎回時間ぎりぎりになって焦りました。
- いろいろな意見を知ることができていいと思う。
- 他人がどのようなことを考えているか知ることが出来てよかった。
- I think it's good for the class.